

第6回田川市都市計画マスタープラン策定委員会

— 議 事 要 旨 —

■日時：平成23年6月10日（金）

14:00～16:50

■場所：田川市役所 1階 大会議室

【会議次第】

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 協議事項
 - (1) 住民意向について
 - (2) 地域別まちづくり構想について
 - (3) その他
- 4 閉会

【委員出席者】

- ・依田 浩 敏 （近畿大学産業理工学部教授）
- ・栗田 泰 正 （福岡県建築都市部都市計画課長）代理：松永委員
- ・須貝 秀 樹 （福岡県田川県土整備事務所長）
- ・佐渡 文 夫 （田川商工会議所会頭）
- ・伊藤 龍 文 （田川市農業委員会会長）
- ・佐々木 シゲ子 （たがわ21女性会議代表）
- ・吉武 精 稔 （田川市区長会常務理事）
- ・嶋津 亮 彦 （田川青年会議所監事）
- ・國松 茂 雄 （田川市社会福祉協議会会長）
- ・二場 公 人 （田川市議会議員）
- ・佐藤 俊 一 （田川市議会議員）
- ・金子 和 智 （田川市議会議員）
- ・今村 秀 治 （公募市民）
- ・尾崎 行 人 （公募市民）
- ・池田 智 子 （F I T）
- ・野村 万 紀 （田川市環境審議会委員）

【委員欠席者】

- ・文屋 俊 子 （公立大学法人福岡県立大学人間社会学部教授）

【議事概要】

3 協議事項

(1) 住民意向について

(2) 地域別まちづくり構想について

■委員長

今回で第6回目となる。前回、地域別の特性、課題について一度お諮りしてご意見をいただいた。本日は、地域別の特性を掴むために住民意向の整理と、地域別のまちづくりの目標、まちづくり構想等について審議いただくことになる。どうぞご協力をお願いしたい。

では、住民意向についてと、地域別まちづくり構想について事務局より説明を行っていただき、その後各地域の居住者、関係者に意見をもらうかたちで進めていく。

(資料内容説明：事務局)

<市街地北部地域>

■委員長

只今市街地北部地域のまちづくり構想について説明があったが、伊田駅等があるということで、市の玄関口にふさわしい賑わいのあるまちという大きな目標になっているようである。方針については、他の地域もそうであるが、土地利用、都市施設、そして景観形成という3つの項目についてそれぞれまとめられている。ここに出ているまちづくりの目標と方針について何かご質問やご意見はあるか。

■委員

まず、田川伊田駅の乗降客の状況はどのようになっているのか。データがあれば教えていただきたい。

伊田駅前を田川市の顔として整備するということであるが、乗降客が減少している中、どのようなまちづくりを進めていくのか。乗降客を増やす取り組みが必要であると思う。乗降客のデータを踏まえてまちづくりを行うべきではないか。

■事務局

田川伊田駅の平成16年度の乗降客数は、1日あたり1,623人となっている。今は中心部(まちなか)に人が住んでおらず、都市機能も集積していない。今後まちなか居住を促し、さまざまな機能を集積させ、賑やかさを取り戻すことで、公共交通等の発展に繋がりたいと考えている。

■委員

学校が多くある地域なので、安全対策を進めてほしいと思う。伊田駅周辺には、お年寄りも多く集まる。道路については、整備はされているが、大学生からは通りが暗いという意見もあるので、安全安心なまちづくりを進めてほしい。

■委員

昔は商店街に人がたくさんいて、賑わいがあった。しかし、近年は、大規模店舗に人が流れている。伊田駅周辺に日常的に人が集まる必要性が薄れてきている。そこを何とかしていかなければならない。昔のような賑わいを取り戻すにはどうしたらいいかを感じる。

■委員長

活性化というのは、まちづくりの中で非常に重要なテーマとなるが、どこも同じような課題を抱えている。解決策が見えないのが現状である。鉄道や広域幹線道路があるので、これらをうまく利用しながら、公共交通機関を含めたまちづくりができればいいと感じる。

■委員

河川については、魅力ある河川環境を創出すると謳っているが、昨年度、国土交通省がばんだごうらの明日を考える懇談会というものを発足させた。彦山川の河川環境整備(ばんだごうらのパラペット改修工事)であるが、東日本大震災の影響によって、整備が進まなくなるのではないかと思う。その後の経過等について教えてほしい。

■委員

予算化は図られている。今年の10月から着工予定で3年をかけて改修予定のようである。

■委員

田川伊田駅に賑わいをということであるが、今は車で行ける場所に人が集まっている。有料駐車場を使ってまで、中心商店街に行くというのは考えにくい。田川伊田駅でパークアンドライドの仕組みを進めていくことも重要であると思う。

■事務局

パークアンドライドの考え方は重要視している。中心地にまちづくりの中核施設が無いことも課題であり、現在は 201 号バイパス沿いに商業施設が集積しているが、今後この流れを少しでも中心地に取り戻さないといけないと考えている。

■委員

伊田駅を中心に交流人口を増やすまちづくりを進めていくべきであると思う。この場所にしかないものを地域住民と模索しながら作っていくべきだろう。後藤寺も同じである。イベントを実施した時には、一時的に人は増えているようなので、地域住民と行政が連携して中心商店街の活性化に向けて取り組むべきである。

<市街地南部地域>

■委員長

目標については、「歴史・文化を活かした交流と交通環境に恵まれたまち」ということで、公共公益施設が集積しているということ、それから石炭歴史博物館のような文化施設もあるということ、後藤寺駅の周辺も含めてそういったものの連携を深めていくということだと思う。この南部地域について何かご質問、ご意見はあるか。

■委員

中心地以外の所で商業施設等の機能を抑制していくというのは非常にありがたいが、かつて大型店が中心地に進出しようとしたときに、商店街の皆が中心地にはもってきてくれるなどということで、郊外に持っていかせたという流れがある中で、結局それで郊外が栄えて中心が衰退してしまったという反省もあるので、ぜひこの方策は進めていただきたい。

また、当事者の我々がそういうことに頼ることなく、中心に住んでいる我々の責任も大きいことを実感する。我々がまず地域から情報を発信して多くの人に呼び掛けて引っ張ってくるというような努力をしなければならないと感じた。行政にはお願いすべきものはするが、まず、自分たちが努力をする姿勢が必要である。

■委員

福岡からの観光客はやはり増えているが、石炭歴史博物館へのアクセスがわかりにくい。どうしても後藤寺駅前が狭くなっているし、玄関口にするには少しわかりづらい場所であるので、そこらあたりの改善はしていかなければならないと思う。

また、今後中心市街地以外は規制していくという話だが、それは人のライフスタイルの話でもある。北九州や福岡方面に仕事で行って、わざわざ商店街で買い物をするというよりも、途中のロードサイドの店舗で買い物をして帰るという若い世代の方というのは多いと思う。中心市街地はどうしても年配の方々の生活エリアとしての位置づけに向かいそうな感じもあるが、パークアンドライドという考えを視野に入れてしっかりと現況を把握したうえで対策を練っていくべきではないかと思う。

■委員

先ほど北部地域でも言ったが、南部地域にはまず、スポーツ施設や文化施設がたくさんある。そこでこれらのスポーツ施設等を活かすためにも宿泊施設が必要であると思う。

また、スポーツ施設を各大学や高校の合宿に利用していただくことにより、交流人口が増えることになるし、山本作兵衛さんの炭坑画を見に来た人に、田川で宿泊してもらおうような考えなくてはならない。

これからの観光は歩いて回れるようにすべきである。観光会社がチラシを出しているように、市内をウォーキングしながら施設を見て回るというような観光のネットワーク化が必要である。また、丸山公園の整備なども必要であると思う。桜まつりのときに大渋滞をし、駐車場が足りないという問題もある。これらの整備をしながら後藤寺商店街とも連携を深めるネットワークが重要である。その他、多世帯住宅、高齢者から若者までが住めるような住宅を住宅マスタープランとの連携の中で推進していくことによって、各駅の乗降客等も増えるのではないかと思う。

■事務局

丸山公園の整備については貴重な意見として頂戴する。

宿泊施設も今までは需要の面で今一つであったが、今回山本作兵衛さんの炭坑画が世界記憶遺産に登録されたことを契機に、宿泊施設等の誘致についても今後協議していかなければならないと考えている。

■委員

現在宿泊施設はいくつあるのか。

■事務局

3箇所程度と認識している。

■委員

宿泊施設のことは長期的に考えて動いてほしい。

■委員

確かに田川には宿泊施設は少ない。だがホテル経営というのはなかなか厳しいものがある。これは私の提案であるが、今後イベント会場や宿泊施設などにも使える武徳殿を観光の核として再興させてはどうかと考えている。1階を祭りの展示場、2階をイベント会場とし、3・4階をビジネスホテルにしたらどうかと構想している。賑わいをつくるためにも核が必要である。

また、伊田駅周辺の整備（伊田駅前広場）も昭和40年代から都市計画決定されているにもかかわらず、全然進んでいない。あれでは市の顔にはなりえない。

このマスタープランは立派であるが、どこからどう実現していくかが課題になる。優先順位を付けて着実に計画を進めてほしい。賑わいのあるまちづくりを進めていくには、まちの中に核をつくらなければならない。核をつくるのは難しいが、核を持ってくるのも民間だけでは厳しいので、行政の力も借りなければならないと思っている。

<弓削田地域>

■委員長

自然があって住宅地があって産業があるというように、いろいろな顔があるだけでなく、県道添田赤池線や国道201号バイパスのような道路もあるということで、まちづくりの方針が示されているが、この弓削田地域について何かご質問、ご意見はあるか。

■委員

ハローワークあたりの工業系用途地域であるが、ここは奈良地区であり、工業系というより、商業系の店舗がたくさん建っており、その両側は住宅地となっているが、工業系市街地のあり方としてどうなのかと思う。

船尾山であるが、自然エネルギー関連の産業を持ってきてはどうかと思う。項目にもあるように、船尾山周辺は、産業振興を図りつつ、自然環境へ影響を及ぼす公害や災害等の防止に努めるとあるが、麻生セメントの煙で船尾地区に有害物質が出てきているのではないかという話もある中で、それらをクリアして進めていってはどうかと考える。

また、この地域は、田川市が第5次総合計画の中で進めていく、ものづくり産業の一つとして、優良農地を利用した6次産業を振興していくような重要な地域であると思う。米だけではなく、他の農産物も作り、それを加工し販売していく拠点として、猪位金地域と連携してはどうかと思う。これは観光にもつながることになるので、観光農園化などのアイデアを出していくことで、栄えていける地域であると思う。

次に、河川の整備であるが、昨年中元寺川に水辺公園が完成し、環境も改善した。地域の皆の憩いの場となっている。今後、そこでイベントの計画もあるので、地域一体となった計画的な整備を要望する。それにはやはり汚水対策が必要であり、水の浄化が進めばイベントも増え、それによって地域の憩いの場としてさらなる発展が見込める。

■委員長

工場の煙については、環境の部署に現状をヒアリングしてほしい。工業系市街地についてはどうか。

■事務局

後藤寺駅に近いところでは、用途地域が準工業地域に指定されている所である。現在は様々な用途が点在している状況である。今回用途地域の見直しについては考えていないが、

今年、都市計画基礎調査を実施するので、再度分析したいと考えている。

また、この地域にはたいへんきれいな水辺公園も完成しているので、うまく活用していくことでまちづくりに繋げるとともに、水質改善に向けた取り組みも併せて進めていきたい。

■委員

弓削田は、農業用地が非常に優れている。これから先を考えれば食糧事情をリードしていけるポテンシャルを十分秘めていると思う。市には重要事項として取り組んでいただきたい。

また、県道添田赤池線を挟むように上の方では若者の住宅化が進んでおり、一方で下の方では、過疎化が進んでいることから、交通機関の見直しを検討していただきたいと思う。

その他、船尾小学校は廃校になっているが、近くに船尾駅もあることから、この施設をうまく活用できないかと考えている。

■委員長

なかなか都市計画の部署だけでは決められないこともあるが、検討していただいてできるものは反映させていただければと思う。

<猪位金地域>

■委員長

猪位金地域は、山と川と農地があり、本当に素晴らしい景観の良い場所である。ただ、事務局から説明があったように交通手段が課題として出ているので、その辺りが方針の中に反映されているようである。

■委員

猪位金川では、今年の10月から2ヵ年計画で水辺公園を作っていくことになっている。これについては地元の住民も一緒に管理をしていかなければならないと考えている。

猪位金では国道322号と県道位登系田線が唯一の生活道路であるが、猪位金の中に商業地はない。最も近いのは後藤寺であるが、車を持たない人は簡単には行けない。コミュニティバス、福祉バスはあるが、コミュニティバスについては、時折満員で通過してしまうこともある。それから市立病院に福祉バスで行くにしても、非常に便利が悪い。交通手段については、是非とも検討していただきたい。

また、国道や県道の一部区間で歩道がない道路や狭い道路があり、危険であるので、生活道路という観点から整備を進めてほしい。

さらに、位登団地は取り付け道路ができておらず、非常に入りにくく狭くて、朝夕は、その道路にどんどん車が進入してきている。つまり、団地内の道路が周辺市町村への通勤道路となっており、通過交通が非常に多い。このように猪位金の住民にとっては交通手段が非常に重要な課題となっている。

■事務局

交通手段については、現在コミュニティバスを運行しており、今年の10月から3路線増やして運行予定であるが、交通連携を極力考えながら進めたいと考えている。

<鎮西地域>

■委員長

鎮西地域は、白鳥工業団地があったり、広域幹線道路が通る可能性のある地域であるが、この鎮西地域について何かご質問、ご意見はあるか。

■委員

広域幹線道路は非常に重要な路線であるが、同じような位置を通る古賀町下伊田線は計画してから進んでいない。昭和41年に都市計画道路として決定されているが、必要だから計画されたのだと思うが、今後進んで行くのか。

■事務局

この広域幹線道路については、現在、福岡県田川県土整備事務所と協議している。協議機関である検討委員会の中で話は前に進んでいる。

■委員長

3年前から都市計画道路の検証作業も進めているところである。

■委員

なぜ今まで検証をしていなかったのか。

■委員長

まさに社会経済情勢に沿うよう、現在、各自治体で見直しが実施されているところである。

■委員

地域内の道が狭く、消防車などの緊急車両が入れない場所がある。もし何か起きた時のことを考えると、心配である。

■委員

田川市全体で考えると交通施策は非常に重要である。週に何日かだけでもコミュニティバスを乗り換えなくても市立病院へ行けるような仕組みにしてはどうか。市立病院は市の施設なので、一人でも患者が増えれば市の収益になるので検討いただければと思う。

先ほど、ホテル経営は非常に難しいという話もあったが、市がそこにお金をかけるのはかなりのリスクを背負うということになる。

炭鉱住宅がいくつか残っているが、例えば、田川地区以外の人や外国の人が田川市を訪問したときに、炭鉱住宅を体験型の宿泊施設として活用することも考えられるのではないかと。同様に船尾小学校も宿泊施設に変えることもできるのではないかと。他の市町村との連携を図りながら、筑豊に人が来るようにしてほしい。

<金川地域>

■委員長

金川地域について何かご質問、ご意見はあるか。

■委員

岩屋自然公園は規模が大きいですが、全然整備されていない。キャンプ場などで中学校の生徒が秋にウォーキング大会を計画しているので、金川校区活性化協議会では毎年草刈りを実施している。毎年中学生のリーダー研修会が英彦山の青年の家であっているが、それこそこの岩屋公園に一泊研修ができるような施設を作ったらいいと思う。今、キャンプ場も整備されていないので、行く人もいない。だからキャンプ場も整備したらいいと思う。

■委員長

私も実は行ったことはある。きちんと整備されていれば、行ってみようと思う人はいるだろう。

■委員

金川地域以外でもそうだが、コミュニティバスはあくまでも対処療法にしかならない。中心市街地への居住を促すということに関しては、若者は車を持っているので、郊外の安い土地に住んで自分たちの好きな所買い物に行くというスタンスはなかなか変えられないと思う。昔からその地域に住んでおり、お子さんが外に出られて一人暮らしの方々が介護施設や医療機関等に行けるようになるのが望ましい。高齢者の方や車をお持ちでない方や、もしくは他地域に公共交通機関で通勤・通所される方が中心市街地に住めるように、その一方で若者が郊外に住めるような計画を作ってはどうかと思う。

田川市には、公営住宅がたくさんある中で新たな住宅の建設は難しいと思うが、例えば、金川地域や猪位金地域に公営住宅を建てれば、お祭りや地域行事の際の、若者の確保などにつながっていくと思う。大きな視点での施策として盛り込んでほしい。

また、この地域は田川直方バイパスや国道201号バイパスという非常に交通量の多い道路を抱えている。これに広域幹線道路が直結してくる。現在も交通事故やスピード超過の多い路線であるので、広域幹線道路の計画と併せて地域の交通安全対策も進めてほしい。

都市計画マスタープランを策定する上で、目玉がほしいと思う。例えば、駅そのものを動かすなど、大きな視点で考えることも必要ではないかと思う。

■委員長

目玉がほしいということであったが、全体でのまちづくりの目標は設定していたと思うが。

■事務局

第4回委員会の全体構想を議論する際に「ゆとりと潤いのあるにぎわい都市たがわ」と

説明させていただいたと思う。この全体構想に付随する形で地域別構想がある。また、今回の都市計画マスタープランの目玉は、広域幹線道路の整備である。

■委員

県内から今大勢の観光客が訪れている。案内板がないことや食事する所がわからないという苦情が寄せられている。案内板については、将来を見据えて設置すべきであると思う。

■事務局

案内板についても検討していかなければならないと思っている。

■委員

田川市の農業、畜産を金川地域が引っ張っていると思う。パブリカや金川牛などはその例である。金川地域は農業を中心とした観光と6次産業という形で、地域全体として盛り上げていく取り組みが必要であると思う。これは第5次総合計画のものづくり産業の振興にも沿うものである。

■委員長

いろいろな意見が出たが、やはり道路、河川というものがキーワードになってくるものと思う。

<全体を通して>

■委員

やはり田川直方バイパスの延伸ということが目玉になっているようである。このプランの中で見れば、2つの道路を結ぶ大切な道路という位置づけは我々も理解している。それで、現在のところ、国道322号バイパスも80%の進捗率であり、早く片付けたいと思っている。他の県道についても、交差点改良をしたり、歩道を設置したりと、優先順位をつけながらやっている。そんな中で国は毎年予算を2割ずつ減らしている。2割を3年間続けられれば、半分になる。

田川直方バイパスの延伸を国に認めてもらうためにも、田川市の協力が必要であるとともに、田川全体としての道路ネットワークとして延伸の意義を調査費をかけて調べる必要がある。田川直方バイパスの延伸に向けた検討や位置づけについては、既に数回の勉強会をやっているのだから、早く結論を出せるようにしたいと思う。

■委員

コンパクトシティというか、まち中に都市機能を持っていくというのは、最近都市計画でよく言われていることであるが、特に、少子高齢化で人口が減っていく中で、駅前に都市機能を集積させることで、中心市街地を活性化させ、まちに賑わいを取り戻せるということで、非常に魅力的な言葉で使われている。実際に高齢者等をまちなかに居住させるのかということについては、非常に難しいところである。

また、コンパクトシティといっても、福岡、北九州、飯塚、田川、それぞれでコンパクトシティのあり方も違うし、中心市街地にある公共交通の状況も違う。だからそれぞれのまちに合ったコンパクトシティのあり方を考えるべきだろう。

世界記憶遺産の件でも、サインやマップがなかなかわからないという意見もあった。今は震災の影響で中国や韓国からの観光客も減っているが、落ち着けばこちらの方にも来ると思うので、まちづくりの一環としてサインとかマップを活用していくべきと思う。

■委員長

以上で議題の全てが終了したが、議題については了承されたものとさせていただきたい。今回6つの地域に分けて田川市の都市計画を考えていこうということだったが、6つの地域ともそれぞれ顔が違うというか、同じ田川市であっても特徴を持った地域である。逆にいえば、それぞれの顔を活かしてまちづくりというものを進めていけば、いいものができると思う。言い換えれば、地域ごとに顔が違うということであれば、それぞれポテンシャルのある地域が集まって田川市というものができていると感じた。課題もたくさんあると思うが、皆さんと議論をしていきながらまちづくりを進めていけば、より良いまちになっていくと思う。

今回出た意見については、再度事務局の方で整理をお願いしたい。

(3) その他

■事務局

次回の策定委員会では、まちづくり構想をどのように実現化させていくかといった方策について、それとこれまでの資料をまとめたものを皆様にお諮りしたいと考えている。

4 閉会

■事務局

(閉会あいさつ)